

群馬県生態系等被害防止外来種リスト 掲載種の付加情報

番号	区分	科名	和名(別名、流通名)	学名	特定外来生物	定着段階	定着段階に関するコメント	特に問題となる地域や環境	生態系への影響	経済・産業被害	人体への被害	対策の優先度	対策方法・対策実施時の注意点など (分類により取扱いが異なるため、具体的な記載が可能な種のみ記載)
1	対策優先種	サンショウモ	外来アゾラ類	<i>Azolla</i> spp.	一部	定着	報告事例は少ないが、水面を覆うような繁茂もある。	溜池・湿田	◎	○	△	○	水面を覆い尽くすように速やかに増殖する。植物体が小さく、ちぎれやすいため、1回の駆除作業で全てを回収することは難しく、監視と回収を繰り返すことが必要。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。まずはアゾラ農法水田から逸脱させないための対策を徹底させる必要がある。
2	対策優先種	サトイモ	ポタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	○	定着	太田市で越冬記録あり。東毛や西毛の他の地点でも逸出記録あり。	池沼	◎	○	△	○	現状では県内の侵入地での駆除は完了している。再侵入があった場合、早期に駆除しないと株分かれて迅速に拡大し、夏季には水面一面に状態となり駆除が困難となる。今後も野外に放逐しないことが重要である。
3	対策優先種	アリノトウグサ	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	○	定着	前橋市東部以東及び富岡市の複数地点でクローン形成	池沼・平地河川	◎	○	△	○	人為的攪乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。再生力が高いため、駆除には複数回の引き抜き完全撤去が必須。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。
4	対策優先種	ウリ	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	○	定着	平野部の川沿いを中心に標高600m以下に広く分布する。	河畔、耕作地周辺	◎	○	○	○	人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草であるが発芽時期が早春で生長速度が速いので、発見時には巨大化してしまっていることが多い。群生し秋に大量の種子を散布する。種子は長く生存するので、駆除には複数年、つるの伸長前に実生を全て引き抜くことが必須。つるを刈り払いても萌芽・開花・結実するので効果がない。また茎の毛が硬く触れると擦過傷を負う危険性があるので、特に結実期の駆除作業は危険。
5	対策優先種	ゴマノハグサ	オオカワヂシャ	<i>Veronica anagallis-aquatica</i>	○	定着	沼田市・高崎市(旧榛名町)より下流側の河川に広く定着。また長野原町でも局所的に定着。	平野部の河川。特にわんどや残沼。	◎	△	△	○	人為的攪乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。秋に発芽し冬に生長するため、見逃されやすい。春に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。多くの地点で絶滅危惧種ワフヂンヤと混生しているため、葉と花の形態の違いから識別しなくてはならない。このため、種子が形成されるまでの花期に駆除作業を行う必要がある。
6	対策優先種	キク	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	○	定着	全県の路傍や河川沿いに広く定着。	河川軸	○	△	△	○	園芸用・国道緑化のために意図的導入され、拡大した。人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。開花するまでみつけにくく、発見時には巨大化してしまっていることが多い。群生し夏に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(春から初夏)の引き抜き完全撤去が必須。地下部は発達せず、花が咲けば目立つので駆除作業は容易であるが、特定外来種であることを知らずに温存したり増やしている場合もあるので周知徹底が必要。
7	対策優先種	キク	ミズヒマワリ	<i>Gymnocoronis spilanthoides</i>	○	定着	平野部(藤岡市・佐野市より下流側)の河畔に広く定着。	平野部の河川。特にわんどや残沼。	◎	△	△	○	アクアリウム等観賞用に意図的に導入された。人為的攪乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖により群生し秋に大量の種子を散布し、さらに植物体の断片からも容易に発根・再生するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。
8	対策優先種	キク	オオハンゴンソウ	<i>Rudbeckia laciniata</i>	○	定着	主に山地に広く定着。	草原、湿原縁、低木林	◎	△	△	○	園芸用のために意図的導入され、拡大した。人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。再生力が強く無性繁殖により群生し、秋に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。花が目立つので特定外来種であることを知らずに温存したり増やしている場合もあるので周知徹底が必要。
9	対策優先種	ハゴロモモ	ハゴロモモ(フサジュンサイ、カモンバ)	<i>Cabomba caroliniana</i>		定着	東毛(板倉町)、西毛(安中市)に侵入し在来種を駆逐した事例がある。	池沼・溜池	◎	△	△	○	密生することがあるが、池沼から逸脱することはない。駆除範囲は広くない。ただし、水域もしくは池の水を抜いての駆除作業になるため安全確保が必須。

10	対策優先種	ユリ	シンテツポウユリ(新鉄砲ユリ、タカサゴユリ)	<i>Lilium × formolagi</i>		定着	前橋市などの平野部及び皇族道路沿いの路傍のほか、渋川市赤城町では利根川の露岩にも生育している。	露岩地、低茎の草地	◎	△	△	○	岩やコンクリートのすき間に入り込むことがあり、鱗茎まで引き抜くことは難しい。種子を大量に生産し爆発的に増殖するので、最低限、結実させないように地上部を刈り取ること。花が美しいので外来種であることを知らずに温存したり増やしている場合もあるので周知徹底が必要。
11	対策優先種	トチカガミ	オオカナダモ(アナカリス)	<i>Egeria densa</i>		定着	平野部の溜池・河川沿いの水域	溜池・河川	◎	○	△	○	アクアリウム等観賞用に意図的に導入された。人為的攪乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖するため、駆除には複数年(開花前)の引き上げ完全撤去が必須。中途半端に巻き取り回収しただけでは再生するので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。
12	対策優先種	トチカガミ	コカナダモ	<i>Eloдея nuttallii</i>		定着	平野部から尾瀬沼・赤城大沼まで群馬県の沈水植物では最も普通種になっている。	あらゆる水域	◎	○	△	○	アクアリウム等観賞用に意図的に導入された。人為的攪乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖するため、駆除には複数年(開花前)の引き上げ完全撤去が必須。中途半端に巻き取り回収しただけでは再生するので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。
13	対策優先種	トチカガミ	アマゾントチカガミ(アマゾンフロッグビット、リムノビウム・ラエビガータム)	<i>Limnobium laevigatum</i>		定着	東毛(邑楽町)で定着しているほか2022年以降沼田市や前橋市からも記録された。	池沼、溜池、河川の堰周辺	◎	△	△	○	群馬県での分布は限定的だが、侵入地点は増加の兆候がある。特に県南部では越冬・定着の可能性が高い。いったん侵入すると分株してよく増えるため、侵入初期に駆除することが必要。分株により迅速に拡大する夏季には、駆除しても子株が残るため効果が低くなる。見つけ次第回収することが必要。野外に放逐しないことが最も重要な対策である。
14	対策優先種	トチカガミ	外来セキショウモ(オオセキショウモ(ジャイアントパリスネリア)、セイヨウセキショウモに酷似した外来種)	<i>Vallisneria gigantea</i> , <i>Vallisneria</i> spp.		定着	館林市の1河川(樋管)で定着し、在来種への脅威になっている。	河川	◎	△	△	○	群馬県での分布は限定的。侵入初期に駆除することが必要。流れのある水域での駆除作業となるので安全確保が必須。
15	対策優先種	アヤメ	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		定着	全県の水辺に広く定着している	河畔、池沼畔、湿地	◎	○	△	○	園芸用のために意図的導入され、拡大した。人為的攪乱地(水路、池沼、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。再生力が強く無性繁殖により群生するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは再生するので効果がない。花が目立つので外来種であることを知らずに温存したり増やしている場合もあるので周知徹底が必要。
16	対策優先種	ミズアオイ	ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス)	<i>Eichhornia crassipes</i>		定着	平野部・丘陵地でいくつか採集記録があり、板倉町では越冬を確認している。	溜池、河川の堰付近	◎	○	△	○	寒さに弱いため、冬には衰退することが多い。夏季、水面一面に株が分かれた状態での回収は困難。
17	対策優先種	イグサ	コゴメイ	<i>Juncus</i> sp.		定着	渋川市以南の池沼や河川沿い、さらに水田放棄地に広く分布している	河川、池沼、湿地、休耕田	○	○	△	○	極めて多数の河川敷や放棄水田、荒廃溜池に分布し、県全域での駆除は難しいと考えられる。湿った場所に強固な株を作るため、人力だけの駆除作業は困難で、重機の投入も必要。また形態が似ている在来種のイグサやホソイとの識別をしながら駆除作業を行う必要がある。
18	対策優先種	カヤツリグサ	メリケンガヤツリ	<i>Cyperus eragrostis</i>		定着	伊勢崎市以東の平野部に侵入し、雑草化している。	平野部の湿地、池沼畔、河川敷	◎	○	△	○	分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。河川に沿った分布をする場合は水系単位の駆除計画が必要。引抜は容易だが、種子は長く生存すると考えられるため、継続的な駆除が必要である。
19	対策優先種	イネ	メリケンカルカヤ	<i>Andropogon virginicus</i>		定着	全県、特に南部に広くみられる。	貧栄養な草原、湿原、河畔の草地	◎	△	△	○	絶滅危惧種の生育域にもよく生育する。駆除は種子が形成される前に行うべき。引抜きは難しく刈り払いは効果がないので、シャベルで掘りとること。

20	対策優先種	イネ	シナダレスズメガヤ(ウイーピングラブグラス、セイタカカゼクサ)	<i>Eragrostis curvula</i>		定着	全県の河川沿いや路傍にすでに広く分布する	河川敷	◎	○	○	○	県内では山岳道路から平野の河川敷・道路沿いまで極めて広い分布域をもち、全域での駆除は難しいと考えられる。株が硬く大きく、また群生するため、駆除には労力と時間が必要。河川敷では重機の使用が推奨され、道路や付帯設備に繁茂している場合は、道路維持工事により除去しないと完全な駆除は難しい。
21	対策優先種	イネ	オオクサキビ	<i>Panicum dichotomiflorum</i>		定着	群生することはまれであるが、全県的に拡散している。	湿地、休耕田、水田、河畔	○	○	○	○	分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。一年草で地下部の発達がよくないので、引抜は容易なほうである。ただし、在来種のヌカキビと似ているので識別が必要。
22	対策優先種	イネ	キシュスズメノヒエ(カリマタスズメノヒエ)	<i>Paspalum distichum var. distichum</i>		定着	玉村町以東の平野部では、水田雑草となるほど定着している。	平野部の水田、休耕田、湿地	◎	◎	△	○	世界に広がる水田の強雑草で、水面上や水田に密生する群落を作り、再生能力が極めて高く、根茎を深く張るため除草剤は効かない。広域分布し農業被害、水流妨害を起こしている。全面駆除方法はないので、重要地点での掘削除去しか効果的な方法はない。
23	対策優先種	イネ	テコスズメノヒエ	<i>Paspalum distichum var. indutum</i>		定着	玉村町以東の池沼や放棄水田に入り雑草化している。このほか富岡市大塩湖でも定着している。	平野部の池沼、湿地、休耕田	◎	○	△	○	河川に沿った分布をする場合は水系単位の駆除計画が必要。また、水田や溜池にも生育するため、集落単位での一斉駆除が望まれる。水面上や水田に密生する群落を作り、再生能力が高いため、駆除には多大な労力と時間を要する。
24	対策優先種	イネ	セイバンモロコシ(ジョンソングラス)	<i>Sorghum halepense</i>		定着	前橋・桐生以南の平野部の路傍等に普通。幹線道路に沿って富岡や渋川でも確認されている。	河川敷	○	△	○	○	多年草で牧草利用のため大量に拡散されたので、まずはこうした利用地から逸出しないよう対策を見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果がある。引き抜き駆除が可能(複数年必須)で、刈り払いの効果がない。国道沿いに増加中なので、国道での駆除が先決。
25	対策優先種	ケン	白山などの高山帯のコマクサ	<i>Dicentra peregrina</i>		定着	本来のコマクサ分布域の草津白根山のほか、日光白根山、野反湖などで意図的に播種され、自然繁殖している。	草津白根山(特に在来タイプが存在する地点)	○	△	△	○	関係者の認識に混乱があるため、外来個体と在来個体が混在している。在来個体については、科学的な根拠に基づいた保全ができるよう、関係者の合意形成が必要。
26	対策優先種	キンボウゲ	セリハヒエンソウ	<i>Delphinium anthriscifolium</i>		定着	前橋市近郊で広がっているほか、榛名山西麓などでも群落を形成している。都市域よりもむしろ郊外や中山間地で広がりやすい。	早春季植物の生育地	◎	△	○	○	分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。地下部は発達せず、花が目立つので駆除作業は容易。
27	対策優先種	マメ	イタチハギ(クロバナエンジュ)	<i>Amorpha fruticosa</i>		定着	全県の山岳道路や河川沿いにすでに広く分布する。	山岳道路法面、河川敷	◎	△	△	○	緑化用・観賞用に意図的に導入され全国各地で繁茂している。人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。低木で広い範囲に無性繁殖個体を作るため、除去には機械と除伐に慣れた作業員が必要。
28	対策優先種	マメ	エニシダ(エニスダ)	<i>Cytisus scoparius</i>		定着	群馬では山岳道路の法面に限定的。	尾瀬(拡散する兆候はないが)	○	△	△	○	低木で多数の分枝を出すため、除去には機械と除伐に慣れた作業員が必要。まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。
29	対策優先種	マメ	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>		定着	全県に普通。	ダム、河川敷、雑木林	◎	◎	◎	○	河川敷での駆除は、国土交通省と県市町村の連携による広域協議会方式が必須。木本でありながら萌芽再生をするので、5年ほど連続で伐採し材を移動処分しなくてはならない。畑地でなく公有地である河川敷に侵入した個体は産業利用の権利はないが、利用できると思誤解されているので周知徹底が必要。河川敷に侵入した個体は枝が棘だらけなので、野外アクティビティや駆除作業で怪我人が多数出るとおそれがある。

30	対策優先種	マメ	外来クサフジ類(ピロードクサフジ(ヘアリーベッチ、シラゲクサフジ)、ナヨクサフジ(スムーズベッチ))	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> 、 <i>V. villosa</i> ssp. <i>varia</i>		定着	南部の平野部のほか、沼田市や川場村からも記録がある。	河川敷	◎	△	△	○	つる性で、密生するため、駆除作業に多大な労力を要する。つるが伸び始める前に駆除することが重要。
31	対策優先種	ニガキ	ニワウルシ(シンジュ)	<i>Ailanthus altissima</i>		定着	利根川本川では、月夜野町以南の河川沿いにすでに広く分布する。また路傍に沿って平野部全域に広がっている。	河川敷	◎	△	△	○	天蚕のエサとして意図的に導入され全国各地で繁茂している。河川敷での駆除は、国土交通省と県市町村の連携による広域協議会方式が必須。木本でありながら萌芽再生をするので、なくなるまで繰り返し伐採しなくてはならない。
32	対策優先種	アブラナ	ハルザキヤマガラシ(セイヨウヤマガラシ)	<i>Barbarea vulgaris</i>		定着	全県の河川、湿地、牧草地、路傍に普通。垂高山帯でも生育可能。	河畔、湿地	◎	○	△	○	人為的攪乱地(工事、残土など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草であるが発芽時期が秋で冬に生長するので、見逃されやすい。引き抜きできるので駆除自体は難しくない。特に山地や積雪地では、花茎が伸びる雪解け後早い時期の駆除が効率的と考えられる。群生し初夏に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(早春)の引き抜き完全撤去が必須。
33	対策優先種	アブラナ	セイヨウカラシナ(カラシナ)	<i>Brassica juncea</i>		定着	人里近くに大量にある。故意による散布がほとんどと考えられる。	河川敷、堤防	◎	△	△	○	野菜だったもので、耕作地近くの人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草であるが発芽時期が秋で冬に生長するので、見逃されやすい。引き抜きできるので駆除自体は難しくない。群生し初夏に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(早春)の引き抜き完全撤去が必須。
34	対策優先種	アブラナ	オランダガラシ(クレソン)	<i>Nasturtium officinale</i>		定着	全県の河川や沢に普通。尾瀬のような山岳域にもみられる。	河川、湿地	◎	△	△	○	人為的攪乱のある池沼・水路に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。平地では秋に発芽し冬に生長するため、見逃されやすい。山菜として利用され、また低温を好むため、積雪地の山地にも逸出していることが多い。このような環境では、本種の存在に気づかれないことが多い。春に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。水域での駆除作業になるため安全確保が必須。また、尾瀬ヶ原の事例ではオオバタネツケバナやオクヤマガラシなどの在来種との識別がはなはだ困難で、本種だけを選択的に駆除するには知識を要する。
35	対策優先種	アブラナ	ショカツサイ	<i>Orycophragmus violaceus</i>		定着	平地だけでなく、山間部でも広がっている。ほとんどが意図的な播種に由来すると考えられる。	早春季植物の生育地	○	○	△	○	分布域が広く、群生することも多いため、全域での駆除は難しいと考えられる。地下部は発達せず、花が目立つので駆除作業は容易。
36	対策優先種	タデ	ツルドクダミ(カシュウ、何首烏)	<i>Fallopia multiflora</i>		定着	南部に広く定着している。平野部の木立のほか、丘陵や山間部の林縁にもみられるようになっている。	林縁	◎	△	△	○	長く、密生するつるをもつため、駆除作業に多大な労力を要する。生長初期に駆除しないと効率が悪い。
37	対策優先種	オオハコ	ウキアゼナ(ハコバ・ロンドンティフォリア、カラカワサ)	<i>Bacopa rotundifolia</i>		定着	当初伊勢崎市や玉村町から記録があったが、現在は高崎市西部まで分布を拡大した。	水田、放棄水田	◎	◎	△	○	すでに広い面積の水田に侵入しているため、分布全域での駆除は難しいと考えられる。匍匐茎で水田に広がるため、発生初期の、結実前の段階で駆除することが重要。特徴ある花をつけるため、他の水田雑草との識別は容易。
38	対策優先種	オオハコ	コテングクワガタ	<i>Veronica serpyllifolia</i> subsp. <i>serpyllifolia</i>		定着	主に山地の草地や湿地、路傍、牧場に広く生育している。	尾瀬などテングクワガタの分布域	◎	△	△	○	分布域が広く、茎が匍匐する小型の草本で密生するため、全域での駆除は難しいと考えられる。小型の種で、形態が似ている在来種テングクワガタと識別しながらの駆除が必要。
39	対策優先種	キク	オオバタクサ(クワモドキ)	<i>Ambrosia trifida</i>		定着			◎	○	◎	○	人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草であるが発芽時期が早春で生長速度が速いので、発見時には巨大化してしまっていることが多い。群生し秋に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(早春)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。花粉症の一因であり、また茎とその毛が硬いので、触れると擦過傷を負う危険性がある。

40	対策優先種	キク	フランスギク	<i>Leucanthemum vulgare</i>		定着	市街地でも記録はあるが、冷涼な気候を好み、孳恋村や片品村のほか赤城山などの山地で逸出・定着し、繁茂している。	山地の草原	◎	△	△	○	寒さに強く、山岳域では警戒を要する。地下部が強固で、かつ再生力が強いが、人力での掘りとり駆除ができるサイズである。
41		イワヒバ	コンテリク라마ゴケ(レインボーファー)	<i>Selaginella uncinata</i>		定着	県南部にまれにみられる程度。しかし、群落は長続きする。	湿った林床	△	△	△		地面を覆うように生育するため、地表から剥ぎ取るように除去すると駆除が容易である。ただし、茎がちぎれないよう、注意を払う必要がある。
42		アヤマ	ヒメヒオウギズイセン(ヒメヒオウギズイセン、モントブレチア)	<i>Crocasmia x crocosmiiflora</i>		定着	邑楽館林地区から確認されている。庭に植えられるため、他の地域でも定着している可能性はある。	平地の民家脇のやぶや林縁	○	△	△		根茎をもち、折れると再生するため、丁寧な駆除作業が必要。大きな群落を作るとはまれで、人力による作業で対応できるサイズである。
43		ヒガンバナ	ハナニラ(セイヨウアマナ)	<i>Ishlion uniflorum</i>		定着	高崎市内の公園で逸出・定着しているが、庭に植えられるため、他にも生育地点はあると考えられる。	早春季植物の生育地	○	△	△		早春に開花する個体しか認識できないので、駆除可能期間が短い。鱗茎の掘り起こし駆除が必要。
44		ツユクサ	ノハタカラクサ(トキワツユクサ、トラデスカンティア・フルミネンシス)	<i>Tradescantia fluminensis</i>		定着	県内では前橋市から採集されている	(森林)	◎	○	△		群馬県での分布は限定的。侵入初期に駆除することが必要。
45		イネ	コヌカグサ(レッドトップ)、クロコヌカグサ	<i>Agrostis gigantea</i> , <i>Agrostis nigra</i>		定着	全県に普通。山地でもよく育つ。	草地、河川敷、堤防、人体関連では住宅地・学校・老人ホーム・商業施設周辺	○	△	◎		多年草で法面緑化のため大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果があがる。強固な株を作るため、駆除には掘りとりなどが必要で、刈り払いの効果がない。細い葉や稈が刈り払い機の刃にからまる。
46		イネ	ハルガヤ(スイートバーナールグラス)	<i>Anthoxanthum odoratum</i>		定着	主に山地の牧場のほか、キャンプ場、草地にみられる。	草地、尾瀬や武尊山など自然植生域に接する場所。	△	△	○		多年草で法面緑化資材や牧草として大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果があがる。密生する群落をつくるため、駆除には掘りとりなどが必要で、刈り払いの効果がない。花粉症の原因のひとつ。
47		イネ	カモガヤ(オーチャードグラス)	<i>Dactylis glomerata</i>		定着	全県に普通。山地でもよく育つ。	草地、河川敷、堤防、人体関連では住宅地・学校・老人ホーム・商業施設周辺	○	△	◎		多年草で法面緑化や牧草利用のため大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果があがる。強固な株を作るため、駆除には掘りとりなどが必要で、刈り払いの効果がない。花粉症の原因のひとつ。
48		イネ	オニウシノケグサ(トールフェスク、ケンタッキー31フェスク)	<i>Festuca arundinacea</i>		定着	全県に普通。山地でもよく育つ。	草地、河川敷、堤防、人体関連では住宅地・学校・老人ホーム・商業施設周辺	○	△	◎		多年草で法面緑化や牧草利用のため大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果があがる。強固な株を作るため、駆除には掘りとりなどが必要で、刈り払いの効果がない。
49		イネ	ドクムギ属(イタリアンライグラス、ペレニアルライグラス等)	<i>Lolium spp.</i>		定着	全県に普通。	草地、河川敷、堤防、人体関連では住宅地・学校・老人ホーム・商業施設周辺	○	△	◎		多年草で法面緑化や牧草利用のため大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果があがる。強固な株を作るため、駆除には掘りとりなどが必要で、刈り払いの効果がない。

50	イネ	シマスズメノヒエ(ダリスグラス)	<i>Paspalum dilatatum</i>		定着	南部の平野部に普通。都市域では在来種のスズメノヒエよりもはや普通。	河川敷	○	△	△		分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。引き抜けるので駆除自体は難しくはないが、在来種スズメノヒエやスズメノヒエによく似ているため、識別が必要。
51	イネ	タチスズメノヒエ(ベイジークラス)	<i>Paspalum urvillei</i>		定着	南東部の平野に局地的。吾妻地域の山岳道路からも記録があるが、工事に伴う一時的な侵入と考えられる。	平野の河畔	○	△	○		節にはよく刺さるとげ状の毛があり注意が必要。在来種スズメノヒエやスズメノヒエに形態が似ているため、識別が必要。
52	イネ	オオアワガエリ(チモシー)	<i>Phleum pratense</i>		定着	全県に普通。山地でもよく育つ。	草地、人体関連では住宅地・学校・老人ホーム・商業施設周辺	○	△	◎		多年草で法面緑化や牧草利用のため大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点での駆除で効果がある。強固な株を作るため、駆除には掘りとりなどが必要で、刈り払いの効果がない。
53	イネ	モウソウチクなどの竹類	<i>Phyllostachys edulis</i> , <i>Phyllostachys</i> spp.		定着	丘陵地で分布を拡大している。全県的に分布が広く河川等の多様な環境にも生えるものはマダケ。	丘陵地を中心に雑木林と隣接する地域。	◎	◎	△		食用に植栽されたが、利用が増殖に追いつかず、全国各地で拡大し、特に里山林や民家で侵入被害(山林崩壊、家屋崩壊)を出している。高齢化・過疎化で対応がますます困難になるので、地権者がいる間に、掘りとりなどで完全に除去すべきである。
54	イネ	ナギナタガヤ(ネズミノシツボ)	<i>Vulpia myuros</i>		定着	全県に普通。	河川敷や堤防、人体関連では住宅地・学校・老人ホーム・商業施設周辺	○	△	◎		一年草で法面緑化や果樹園の雑草防除のため大量に拡散されたので、まずはこうした外来種を法面緑化に用いないよう見直す必要がある。広域に分布域するため完全駆除は望めないが、重要地点では引き抜き駆除で効果がある。群生するため、駆除・搬出には工夫が必要。
55	イネ	ヨシススキ(サッカラムパープルビーブルグリーター)	<i>Saccharum arundinaceum</i>		定着	現在のところ安中市磯部の県道沿いのみ。開花結実しているが分布拡大の兆候はない。	河川敷、草地	○	△	○		群馬県での分布は限定的。侵入初期に駆除することが必要。ただし、草丈が高く頑強な株となるため、重機を用いて撤去する必要がある。
56	ケシ	ナガミヒナゲシ	<i>Papaver dubium</i>		定着	平地の都市域だけでなく、たとえば沼田市周辺でも記録されるようになった。一部は二次的に河川敷などに広がっている。ほとんどが意図的な播種に由来すると考えられる。	河川敷	○	○	○		分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。地下部は発達せず、花が目立つので駆除作業は容易。汁がつくとかぶれるおそれがあるため、汁がつかないように対策が必要。
57	メギ	ヒライギナンテン	<i>Berberis japonica</i>		定着	都市近郊の緑地や森林に少数が逸出し、生育していることがある。	丘陵地の森林。ただし、現状は限定的。	△	△	△		木本のため、稚樹のうちの駆除が必要。庭木の果実が鳥によって散布されるため、逸出した樹木の駆除だけでは根本的な対策に至らないが、やらないと増加する。
58	マメ	アレチヌスビトハギ	<i>Desmodium paniculatum</i>		定着	東毛地域や前橋市の幹線道路沿いや市街地に定着するほか、山間地の道路沿いでも記録がある。	丘陵地の疎林、雑木林	○	△	△		都市域だけでなく、山間部の法面工事を行った場所や高速道路沿いにみられる。分布域が広いので全域での駆除は難しい。地上部以上に強固な地下茎を持つため、草刈だけでは地下部から再生することに注意が必要。
59	バラ	ビワ(ヒワ)	<i>Eriobotrya japonica</i>		定着	県南部の山間部や丘陵に逸出個体をみかけ、大木になることもある。	急斜面や岩角地の疎林	△	△	△		果樹木本で、稚樹のうちの引き抜き駆除が必要。種子が果樹園や庭から鳥によって散布されるため、逸出した樹木の継続的な引き抜き駆除と植栽樹の果実管理(鳥に食わせないなど)が必須。

60	バラ	ピラカンサ類	<i>Pyracantha</i> spp.	定着	都市域や集落周辺に少数個体が逸出して生育していることがある。	平地の河川敷。ただし、現状は限定的。	△	△	△		木本のため、稚樹のうちの駆除が必要。庭木の果実が鳥によって散布されるため、逸出した樹木の駆除だけでは根本的な対策に至らないが、やらないと増加する。
61	アカバナ	コマツヨイグサ	<i>Oenothera laciniata</i>	定着	平野部の路傍や河川に広く分布する。	河川敷	○	△	△		日本では20世紀に海岸砂丘に上陸し、21世紀になって全国の内陸部で拡大を続けている。人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草で小型で生長速度が速いので、発見時には大面積化してしまっていることが多い。群生し秋に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(早春)の引き抜き完全撤去が必須。
62	タデ	シャクチリソバ(シュツコンソバ、ヒマラヤソバ)	<i>Fagopyrum dibotrys</i>	定着	前橋市や高崎市などから記録があるが、攪乱依存種と考えられ、群落を形成した後消える場合が多い。	低茎の草原、河畔	△	△	△		群生することもあるが、中型で短命な多年草のため、引抜は容易。攪乱地によく入り込むので、工事や洪水後の監視と侵入初期の駆除を行うと効果的。
63	タデ	ヒメツルソバ(カンイタドリ)	<i>Persicaria capitata</i>	定着	当初は都市域の逸出個体程度であったが、山間部でも半栽培状態のものがみられるようになった。	石垣、露岩	○	△	△		半栽培状態で存在することが多いので、駆除にあたっては土地管理者の確認が必要な場合が多い。半つる性のため、伸長する前に引き抜き駆除すると効果的。ただし、根が伸び、石垣のすき間に入り込むこともあるため、駆除作業時に安全確保が必須。
64	タデ	ヒメスイバ	<i>Rumex acetosella</i>	定着	牧草地や芝生を中心に県内に広く分布する。	シバ草原	○	△	△		分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。牧場や果樹園にみられることが多く、出入りする車両に種子が付着するため、洗浄除去などの対策が必要。小型だが、強い根茎を持つため駆除作業には多大な労力を要する。
65	タデ	ナガバギシギン(テジミスイバ)	<i>Rumex crispus</i>	定着	主に平野部の水辺や路傍に普通にみられる。	水路、湿地、休耕田	◎	○	△		分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。根が深く伸び、また種子生産が多いため、駆除には労力と時間を要する。
66	タデ	エゾノギシギン(ヒロハギシギン)	<i>Rumex obtusifolius</i> var. <i>agrestis</i>	定着	群馬県内の同属の中で最も広く分布し、在来のギシギン属と無差別的に交雑する。	湿地、休耕田、水田、河畔	◎	○	△		分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。根が深く伸び、また種子生産が多いため、駆除には労力と時間を要する。
67	ナデシコ	ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	<i>Silene armeria</i>	定着	都市近郊の他、河川沿いに広く分布する	河原、特に砂礫質の場所	○	△	△		分布域が広いので全域での駆除は難しいと考えられる。一年草で地下部があまり発達しないので、引抜駆除は容易。
68	マタタビ	キウイフルーツ(シナサルナシ)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	定着	全県の丘陵帯の二次林や植林地に逸出個体を見かけることがある。	雑木林	○	△	△		果樹木性つる植物で、長さ数10mに及ぶため、稚樹のうちの引き抜き駆除が必要。種子が果樹園や庭から鳥によって散布されるため、逸出した樹木の継続的な引き抜き駆除と植栽樹の果実管理(鳥に食べさせないなど)が必須。
69	キョウチクトウ	ツルニチニチソウ	<i>Vinca major</i>	定着	北毛から東毛まで、集落付近や路傍に広く逸出している	林縁・河川沿い	◎	△	○		硬いつると太い地下茎をもつため、駆除作業には多大な労力が必要。つるが密生することもあり、ガーデンやグラウンドカバーの素材としてよく用いられる植物のため、庭園などの管理地から逸出しないよう管理を徹底することが根本的な対策である。

70	ヒルガオ	アメリカネナシカズラ	<i>Cuscuta pentagona</i>		定着	南部に広く定着。北部でも散発的にみられるようになった。	湿地、池沼畔、河川敷(マダオシの生育環境という意味で)	○	△	△		寄生植物のため、広域分布し発生予測は困難であるが、キク科、ウリ科、ナス科、シソ科、ヒルガオ科、キョウチクトウ科、セリ科、アオイ科、アブラナ科、ヒユ科、アカザ科、ツルムラサキ科、ユリ科、イネ科など宿主植物の群生地を対象としたモニタリングで一定の見解が望める。また、類似の在来種マダオシとの識別を確実に行う必要があるが、それには花が開いていることが前提になる、
71	ヒルガオ	ホシアサガオ	<i>Ipomoea triloba</i>		定着	現在のところ高崎市内の市街地と畑に限定される。	平野部の河川敷	△	△	△		群馬県での侵入はまだ限定的。侵入初期での駆除が有効と思われる。
72	ナス	チョウセンアサガオ属	<i>Datura</i> spp. ( <i>Brugmansia</i> spp.)		定着	平野部の路傍や荒地に生育している。現在も見られるものの多くはケチョウセンアサガオ。	人体への被害として、家屋や公園、道路周辺	△	△	◎		個体密度が低いため、種子が熟す前に引き抜きまたは刈り取り駆除すれば効果的。ただし、根が太く、長く伸びるため、駆除のためにシャベルやつるはしが必要な場合もある。
73	オオハコ	イケノミズハコベ	<i>Callitriche stagnalis</i>		定着	東毛地域の池沼や河川残沼に生育している	池沼、湧水池	◎	○	△		小型であるが、再生能力が高い。駆除しても子株が残ると効果が低くなる。見つけ次第回収することが必要。
74	クマツヅラ	アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクパーベナ)、ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)	<i>Verbena</i> spp. ( <i>V. brasiliensis</i> , <i>V. incompta</i> , <i>V. bonariensis</i> , <i>V. litoralis</i> )		定着	南部平野部の路傍や荒地によく出現するが、新しい道路沿いに山間部で見かけることがある。河川に逸出することもある。	河川敷、山地河川の岩礫地。	○	△	△		分布域が広く、路傍等に突発的に出現するため、分布域全域での駆除は難しい。花が目立ち大型の草本のため発見は容易であり、さらに引抜も容易なため、見つけ次第引き抜いて河川敷や自然裸地への侵入を防止したい。ただし、とげ状の毛があるため、厚手の手袋と袋などの準備が必要である。
75	ゴマノハグサ	フサフジウツギ(ニシキフジウツギ、チチフフジウツギ、ブッドレア)	<i>Buddleja davidii</i>		定着	西毛の山間地のほか、北毛などでも侵入し定着している。路傍の岩場のほか河川沿いの岩場にも生育する。	露岩地	◎	△	△		緑化用・観賞用に意図的に導入され全国各地で繁茂している。人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。低木で、岩に根を下ろしている場所では引抜困難。伐採を続けて衰退させるしかない。
76	キク	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>		定着	すでに全県的に分布している。榛名湖畔のような湿地にも一部侵入している。	湿地、水田、休耕田、河川沿い	○	○	△		人為的攪乱地(河川敷など)や水路・水田周辺に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草であるが発芽時期が遅く夏に急生長するので、見逃されやすい。引き抜きできるので駆除自体は難しくないが、果実にとげがあり衣類等に付着するので、駆除作業や生育地のアクセスが困難となる。
77	キク	アメリカオニアザミ	<i>Cirsium vulgare</i>		定着	高崎駅で最初に確認されたが、現在前橋市～安中市まで分布を拡大している。	人体被害の方が重視される。被害が出るのは歩道、駐車場のほか、畑、公園など。	○	○	◎		鉄道沿線や路傍、人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。全体にとげがあり、負傷することもあるため、駆除の際には対策が必要。
78	キク	ハルシヤギク	<i>Coreopsis tinctoria</i>		定着	オオキンケイギクに比べれば少ないが、園芸由来のものが少ないながら路傍や河川敷に見られる。	河川敷	○	△	△		目立つ花をつけ、また一年草で地下部が強くないため、人力での駆除は容易
79	キク	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>		定着	全県にもはや普通種。	草原、河畔。特に自然植生域や絶滅危惧種が生育する地点	○	△	△		尾瀬や榛名山沼ノ原のような自然保護地域、絶滅危惧種の生育地点では駆除効果が期待される。根が短く直根のため、根が短く直根のため、開花個体は引き抜き駆除が可能。

80	キク	ペラペラヨメナ(ペラペラヒメジョオン、メキシコヒナギク、エリゲロン・カルピンスキアヌス、蕪平小菊、ゲンペイコギク)	<i>Erigeron karvinskianus</i>		定着	安中市と前橋市で定着が確認されている。	露岩地や切り通し	○	△	△		県内では岩場や擁壁に生育するため、駆除作業においては安全確保が必須。新たに放逐しないことが重要。
81	キク	コウリンタンポポ(エフデタンポポ)	<i>Hieracium aurantiacum</i>		定着	標本は安中市で採集されたものだが、国内での分布を考慮すると北毛中心に定着している可能性がある。	草地。特に山地の低茎の草地。	○	△	△		根を残さないよう掘りとり駆除することが容易で効果的。県内では大規模な群落が少ないため、初期のうちに対応することが重要。
82	キク	アラゲハンゴンソウ(キヌガサキク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー)	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>		定着	邑楽館林地域のほか、片品村一ノ瀬や赤城山でも記録がある。多くは逸出か植栽放棄。	河川沿い、草地と周辺。	○	△	△		オオハンゴンソウのように密生する群落をつくることはないため、引抜による継続的な管理は容易。
83	キク	セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	<i>Solidago altissima</i>		定着			◎	△	△		人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖により群生し秋に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。
84	キク	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea</i> var. <i>leiophylla</i>		定着			○	△	△		人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。無性繁殖により群生し秋に大量の種子を散布するため、駆除には複数年(開花前)の引き抜き完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。
85	キク	外来性タンポポ種群	<i>Taraxacum officinale</i> 、 <i>T. spp.</i>		定着			◎	△	△		人為的攪乱地(工事、残土、荒地など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。根が深く伸び、また種子生産が多いため、駆除には複数年(開花前)の掘りとり完全撤去が必須。刈り払いでは萌芽・開花・結実するので効果がない。
86	キク	オオオナモミ	<i>Xanthium canadense</i>		定着	沼田市・みどり市東町より南に広く分布している。群馬県のオオナモミ属はほぼ本種になった。	河川敷、池沼畔の減水湿地	○	△	△		人為的攪乱地(工事、残土、河川敷など)に速やかに侵入し広く分布するため、まずは当該地の特定と監視が必須。一年草なので種子形成前の引抜駆除で対応は可能である。県内ではほぼ絶滅状態であるオオナモミとの識別が必要。
87	対策優先種	サンショウモ	オオサンショウモ		侵入	前橋及び沼田市内の狭い範囲に侵入している。少なくとも前橋市では越冬している可能性が高い。	溜池、池沼	○	△	△	○	現状はまだ定着初期の段階だが報告は数年間で増加傾向にある。夏季株が分かれた状態での回収は困難。越冬が確認されたら、早い時期での駆除が望まれる。また、新たに野外放逐を行わないことが重要である。
88	対策優先種	ウコギ	ウチワゼニクサ(タテバチドメグサ)		侵入	2024年、沼田市の放棄水田で生育が確認された。確認時点では小規模なパッチであるが、今後の分布拡大が懸念される。	溜池、池沼、湿地、河川、休耕田・放棄水田	○	△	△	○	密生する群落を形成し、宇都宮市、東京都区内などで駆除作業も行われている。一方でアクアリウム素材として広く流通している。県内の生育地も付近にアマゾンチカガミやオオサンショウモなどアクアリウムで多用される植物が生育しているため、その素材が放逐された可能性が高い。本種は地中に分岐しながら横に伸びる長い地下茎をもち、かつ地下茎や葉の断片からも容易に再生する。このため、いったん侵入すると根気強い駆除作業を強いられる。まずは、アクアリウムの素材を野外に放逐しないための啓発が必要である。
89	対策優先種	ヒユ	ナガエツルノゲイトウ	○	侵入	2025年、館林市の水田で生育が確認された。確認箇所では除草剤を散布して経過観察を行っているが、今後の分布拡大が懸念される。	平野部の池沼、河川、水田、湿地	◎	◎	△	○	・早期発見、早期防除が重要である。 ・断片から再生するおそれがあるため、機械除草は行わないこと。 ・根茎を残して越冬するため、対策の際には継続的なモニタリングが必要である。 ・断片が水路に流出すると流出先で再生して群落を形成するため、水口や給水栓にネットを被せ、侵入を防止すること。

90	スイレン	園芸スイレン	<i>Nymphaea cv.</i>	侵入	東毛(板倉町)、西毛(高崎市吉井町)の標本があるが、放逐された地点はもっと多いと考えられる。	池沼	△	△	△		全国各地の公園の池沼に意図的に導入され、そこから自然池沼に拡大している。県内でも在来種が存在する池沼に植栽された事例がある。まずは安易に植えないように周知徹底することが必要。
91	カヤツリグサ	アメリカヤガミスゲ	<i>Carex scoparia</i>	侵入	中之条町のダム湖関連調査で記録されたものが群馬県立自然史博物館に収蔵されている。	湿地	△	△	△		中型のスゲで、駆除自体は難しくないが、在来のカワズスゲ類などに形態が類似し、同定・駆除には専門知識を要する。
92	イネ	アメリカスズメノヒエ(パニアグラス、オニスズメノヒエ)	<i>Paspalum notatum</i>	侵入	2023年に伊勢崎市で記録された。	東毛・中毛の平野部	△	△	△		現侵入地での早期の除去による封じ込めが必要。
93	イネ	ナビアグラス(ネビアグラス、エレファントグラス、ペルーグラス)	<i>Pennisetum purpureum</i>	侵入	桐生市のゴミ処理場の近くで記録があるが、一時的なものと考えられる。	県内での定着は困難?	△	△	△		亜熱帯性の陸生植物であり、県内での越冬は難しいと考えられる。
94	カタバミ	オオキバナカタバミ(キイロハナカタバミ)	<i>Oxalis pes-caprae</i>	侵入	基本的には園芸植物だが、前橋市の路傍で逸出した事例がある。	?	△	△	△		カタバミ属は根出葉が地下部からすぐに外れるため、確実に全体を駆除することが必要。また、園芸オキザリス類は栽培地外に逸出することがあるので、移出株を発見した場合、除去するよう周囲を監視することが必要である。
95	アオイ	フヨウ	<i>Hibiscus mutabilis</i>	侵入	まれに家屋跡にみられることがある。	?	△	△	△		園芸木本で、稚樹のうちの引き抜き駆除が必要。植栽下庭木・公園樹の果実が鳥によって散布されるため、逸出した樹木の継続的な引き抜き駆除と植栽樹の果実管理(鳥に食わせないなど)が必須。
96	ナデシコ	マンテマ(マンテマン)	<i>Silene gallica var. quinquevulnera</i>	侵入	群馬県内では工場周辺の一時逸出程度。	砂質の河原。全国的に問題になるのは海岸。	△	△	△		引抜は容易。新潟県では海岸付近によくみられるため、河川敷の砂地では注視する必要があるかもしれない。
97	ヒユ	ホコガタアカザ	<i>Atriplex prostrata</i>	侵入	南東部の工場周辺や路傍から記録がある。	砂質の河原。全国的に問題になるのは海岸。	△	△	△		群馬県では侵入しても定着した記録はない。
98	アカネ	オオフタバムグラ	<i>Diodia teres</i>	侵入	高崎市とみどり市で採集されているが、その後拡散・定着の報告はない。	河川敷	○	△	△		小型の草本のため、引抜・搬出は容易。ただし、種子の寿命が長く、引き抜き後に種子から再生する可能性がある。県外では繁茂例があるため、侵入初期で完全に駆除することが重要。
99	ヒルガオ	外来ノアサガオ類	<i>Ipomoea spp. (Pharbitis spp.)</i>	侵入	前橋市内で管理地以外に逸出した例がある。	未評価	△	△	△		県内では道路沿いの雑草群落の事例のみ。ただし、地下部を考慮すると駆除作業は厄介であると考えられ、定着する前に駆除することが必要である。

100	モクセイ	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>		侵入	平野部・丘陵地の都市近郊に点在する	雑木林	◎	△	△		木本のため、稚樹のうちの駆除が必要。庭木・公園樹・工場緑地帯植栽株の果実が鳥によって散布されるため、逸出した樹木の駆除だけでなく、安易に植栽しないように周知徹底することが必要。
101	キク	カッコウアザミ、ムラサキカッコウアザミ(オオカッコウアザミ)、アグラタム(総称名)	<i>Ageratum conyzoides</i> , <i>A. houstonianum</i>		侵入	富岡市内の公園で採集された記録がある	里山の草地?	△	△	△		現状では局地的に発生した例があるのみ。抜き取りは容易で、侵入初期での駆除が望まれる。
102	キク	ユウゼンギク	<i>Aster novi-belgii</i>		侵入	嬭恋村から記録がある。	寒冷地の草原、湿地	○	△	△		大規模な群落を形成するため、侵入初期の駆除が推奨される。
103	キク	タチアワユキセンダングサ(オオバナセンダングサ)	<i>Bidens pilosa</i> var. <i>radiata</i>		侵入	公共施設の温室から逸出した個体がある。	里山の草地?	△	△	△		熱帯性のため、本州での定着は困難と思われる。